

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	幸区第1グループ(南河原・幸・下平間)	評価対象年度	平成26年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人かわさき市民活動センター ・代表者名 理事長 小倉 敬子 ・住所 川崎市中原区新丸子東3丁目1100番地12	評価者	こども支援室長
指定期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日	所管課	幸区こども支援室

2. 事業実績

利用実績	<p>1 南河原こども文化センター ①年間延べ利用者数 46,500人 ②年間延べ利用団体数 984団体</p> <p>2 南河原小学校わくわくプラザ ①登録者数 188人 ②年間延べ利用者数 10,853人</p> <p>3 幸町小学校わくわくプラザ ①登録者数 266人 ②年間延べ利用者数 19,592人</p> <p>1 幸こども文化センター ①年間延べ利用者数 34,738人 ②年間延べ利用団体数 402団体</p> <p>2 戸手小学校わくわくプラザ ①登録者数 408人 ②年間延べ利用者数 26,885人</p> <p>3 御幸小学校わくわくプラザ ①登録者数 399人 ②年間延べ利用者数 25,111人</p> <p>4 西御幸小学校わくわくプラザ ①登録者数 164人 ②年間延べ利用者数 8,838人</p> <p>1 下平間こども文化センター ①年間延べ利用者数 26,932人 ②年間延べ利用団体数 512団体</p> <p>2 下平間小学校わくわくプラザ ①登録者数 247人 ②年間延べ利用者数 15,888人</p> <p>3 古市場小学校わくわくプラザ ①登録者数 166人 ②年間延べ利用者数 10,624人</p> <p>4 古川小学校わくわくプラザ ①登録者数 397人 ②年間延べ利用者数 23,966人</p>
収支実績	<p>単位:円</p> <p>1 収入 指定管理料 177,406,960</p> <p>2 支出 人件費 160,842,388 事業費 8,697,486 事務費 15,545,747 その他経費 0 合計 185,085,621</p> <p>3 差引 -7,678,661</p>
サービス向上の取組	各種アンケート、意見箱、日常的なコミュニケーションにより、利用者のニーズを把握し、イベント内容や遊具等の購入など、事業活動に反映。事業者のスケールメリットを活かし、施設整備、交流事業等を実施。

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	順調に事業の推進が図られているか	10	4	8
		事業計画に基づき、こども文化センター事業とわくわくプラザ事業を着実に実施したか			
		こども文化センターの利用者数に増加傾向が見られるか			
		わくわくプラザにおいて、適切に児童を受け入れているか			
<p>(評価の理由) 幸区内こども文化センター合同行事の一つとして実施した職業体験を通じて社会のしくみを学ぶ「さいわいキッズシティ」は、昨年度参加者より10%増やすことができ、中学生ボランティア19名を含め215名の参加があった。幸区第1グループ事業については、南河原公園で開催したスポーツ活動事業「はっぴーウォーカー 忍者の里で大冒険」のほか、子どもたちの日ごろの活動の発表の場となっている「はっぴーらいぶ」等の地域交流事業を実施している。各館での事業は、例年グループ事業として実施している野外活動事業(キャンプ)を、今年度から過去3年間の合同キャンプの実績を活かし、各こども文化センターごとで実施するなど、工夫を凝らしているほか、乳幼児対象の事業を含め、季節ごとに多数のイベントを実施している。各イベントは、運営協議会や地域の方々、多くの中高生ボランティアと協働して実施し、世代間交流、異年齢交流、地域の結びつきを深めるなど充実した内容となっている。また、各館とも、団体利用数、高校生及び乳幼児親子の利用者数が増加している。各わくわくプラザについては、学校の協力を得ながら、放課後の安全で、楽しい居場所となるよう工夫しつつ着実に事業を実施し、利用者の増加や障害児の利用状況等に応じスタッフを適宜配置するなど、一定程度柔軟な対応を図ることができている。</p>					
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続  効率的・効果的な支出	適切な会計処理及び金銭管理をしているか	5	3	3
		計画に基づき適切な支出をしているか			
		効率的な執行等、経費削減に具体的に取組んでいるか			
		サービスの水準を確保しているか			
<p>(評価の理由) 会計処理及び金銭管理について適切に行われている。全20グループを管理している運営法人のスケールメリットを生かし、一元的な臨時職員の雇用・管理、警備等業務委託の一括契約、消耗品・備品の一括購入等の取組みによる経費削減を図るとともに、その剰余金を児童用図書、空気清浄機、わくわくプラザ用トランシーバー、わくわくプラザ児童用ピプス等の備品購入や窓ガラスへの飛散防止フィルムの添付等施設の整備・修繕による環境整備に充て、利用者に還元している。</p>					

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業の周知に積極的に取り組んでいるか	5	4	4
	利用者への対応	利用者に対するサービスが適切にされているか	5	3	3
		特別な配慮を要する利用者への対応が適切にされているか			
	運営協議会の実施	こども文化センター運営協議会を実施しているか	5	3	3
	保護者懇談会の実施	わくわくプラザ保護者懇談会を実施しているか	5	3	3
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校、行政及び地域等と連携しているか	10	4	8
	利用者ニーズ	利用者ニーズを把握し、事業運営に反映させているか	10	3	6
<p>(評価の理由) 毎月のお便りやポスター、中高生向けの広報を関係機関に配布するなど、積極的に広報しているほか、ホームページをリニューアルし利用案内や施設ごとの行事・活動等の周知を積極的に行った。特に南河原こども文化センターは、市内3施設の音楽室のしおりを中心と成って作成したほか、音楽室利用のチラシを川崎区、幸区、中原区の中学校、高校へ配布、地域のコンサートプログラムへのチラシの挟み込みを行った。特別な配慮を要する利用者については、保護者や学校等の関係機関と情報交換を密に行い、巡回相談員の定期的巡回を受け、個別の対応についての理解を深めている。また、研修等で職員のスキルアップを図り、児童の人権を尊重しつつ適切な対応を行っており、各行事への参加なども含め、安全安心な居場所を提供している。また、各学校、行政機関、社会福祉協議会、PTA、各中学校区地域教育会議等と連携し、地域の青少年に係る情報共有を図り、こどもの安全を守る意識を高めつつ、各機関と協力して様々な事業を実施しているほか、市環境局と連携して南河原こども文化センターにある地中熱空調システムの管理や見学者の受け入れを行っている。特に幸区こども支援室と協働し、父親の育児参加を促すため、幸区第1グループ内3か所のこども文化センターの土曜日開所を活用し、子育て支援講座(パパッとサタデー)を毎月1回開催し、地域の子育て支援に貢献している。こども文化センター運営協議会、子ども運営会議、保護者懇談会の定期的な開催、各行事後のアンケート、館内の意見箱の意見だけでなく、利用者の意見・要望を積極的に出してもらえよう、壁面装飾に意見を書いてもらうなど工夫し、児童・保護者・地域の方々の意見や要望を収集し事業・施設運営に反映させている。</p>					
組織管理体制	適正な人員配置	児童福祉施設最低基準第38条の規定に従い職員を配置しているか	10	3	6
		こども文化センター及びわくわくプラザの施設管理と事業運営のために、指定管理仕様書において定める職員配置の最低基準どおりに人員を配置しているか			
		川崎市公契約条例を遵守しているか			
職員の研修体制	職員のスキルアップに必要な研修を実施したか(外部研修の受講を含む)	10	4	8	
個人情報等の取扱	個人情報保護に関する規定や体制を整備し、適正に取り組んでいるか	5	3	3	
<p>(評価の理由) こども文化センター及びわくわくプラザ共に、適正な職員配置がされており、特別な支援を必要とする児童については適宜スタッフの配置を行い円滑な事業運営が行われている。市主催の研修にも積極的に参加しており、財団、区、グループ、各館で必要とされる各種研修を企画・実施し、受講した研修の報告場を設け情報の共有化を図るなど、職員全体のスキルアップを図っている。個人情報等の取扱については、適正に管理しており情報漏えい及び紛失等の事実はなかった。</p>					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障を来すことのないよう、施設・設備の保守点検や整備、備品管理等を適切に実施しているか	5	3	3
	利用者の安全確保	利用者の安全を確保する体制(マニュアル等)を整備しているか	5	3	3
		事故等が発生した場合に適切な対応をしているか			
		感染症予防対策や発生時において、適切な対応をしているか			
	防犯対策及び災害時の対応	施設の防犯のための工夫をしているか	5	4	4
		災害発生時に備え、マニュアル等を整備しているか			
災害発生時に確実な対応・行動を取るための取組をしているか					
<p>(評価の理由) 施設の日常点検、設備の保守点検、備品管理等を適切に実施し、必要な補修工事を適宜に実施している。安全点検マニュアルや事故対応マニュアルの作成、全職員が日本赤十字による応急手当研修の受講、アルコール手指消毒剤の配備、スタッフに対するインフルエンザ予防接種の補助など、事故防止及び感染症予防等の衛生管理に、積極的に取組んでおり、大きな事故はなかった。各こども文化センターで工夫を凝らし、「安全マップ」作成を実施し、子どもたちの地域の安全への意識を高めた。特に下平間こども文化センターで作成した安全マップは、「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」でチャレンジ賞を受賞した。消防設備点検、消防避難訓練を実施し、災害対応マニュアルを作成し、職員に周知している。かわさき市民活動センターが運営するグループで初めて、こども支援室と「避難・情報伝達訓練」を実施し、各わくわくプラザからこども文化センターを経て、こども支援室への情報伝達を実地で確認し、反省点の改善を進めている。こども文化センターに24年度に設置した発電機の試運転、防災用品の確認を実施するなど、災害時対応、防災体制の強化に努めている。</p>					

#### 4. 総合評価

評価点合計	68	評価ランク	C
-------	----	-------	---

#### 5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

長年、こども文化センター及びわくわくプラザの管理運営に携わった経験を活かし、学校、地域、行政等と連携し、安定した施設運営を実施している。また、全20グループの指定管理者としてのスケールメリットを活かし、全市、区、グループでの合同事業を実施するとともに、予算の一元管理により施設ごとに偏りのないサービスを提供しつつ、経費節減を図り、その効果を備品の充実や施設の環境整備・改善を図りサービス向上に努めている。

また、各こども文化センターでは、運営協議会、利用団体と協働で「センターまつり」「餅つき」「おばけ屋敷」等の事業を行い、子ども達が、地域の方と交流する場を積極的に設けている。

#### 6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

引き続き、こども文化センターについては、地域に根付いた安全で安心な施設となるよう環境整備や職員のスキルの向上に努め、職員と子どもが顔の見える関係を築き、中高生を含めた様々な年代の子どもたちが安心して居場所となるよう工夫し、利用者にとって居心地のよい場となるよう努めていただきたい。また、市民活動の拠点施設として、幅広く利用されるよう取り組んでいただきたい。

わくわくプラザについては、放課後の安全・安心で楽しい居心地の良い居場所となるよう環境整備や職員のスキルの向上に努めていただきたい。